

コクラ・クロサキリビテーション第1弾 「BIZIA小倉」の建設に着手

ワールドホールディングスグループで、不動産事業を全国展開する株ミクニ（北九州市小倉北区紺屋町、西田宏二社長）は昨年10月、北九州市のSDGs未来都市の実現に向けた新しい取り組み「コクラ・クロサキリビテーション」の第一弾プロジェクトであるオフィスビル「BIZIA（ビジア）小倉」の新築工事に着手した。

「BIZIA」とは、同グループが展開するオフィスの冠名称で、東京都の「BIZIA麹町ビル」に続くシリーズ2棟目。ビジネスを意味する「BIZ」と、ラテン語で「集まる場所」を意味する「IA」を組み合わせたもので、創造性のある空間を想起させると同時に、「ビジョン」という言葉もイメージしやすい造語として、未来感・賑わい感のある空間創出及び街づ

くりを目指したいとの思いを込めている。

「コクラ・クロサキリビテーション」はIT企業誘致促進を目的のひとつとしており、そうした企業を求めるオフィス環境を創出するため、BIZIA小倉には、環境性能（省エネ）の高い仕様、100%再生可能エネルギーの使用、ポストコロナへの対応、BCP対策、セキュリティ機能の充実といった特長・機能が備えられる。

またテナントワークターの快適さやウェルネスも大きなテーマで、憩いのスペースとしてリフレックスコーナーや屋上庭園を設置するなど、オフィス空間としての快適性にも十二分に配慮している。

こうした先進的機能と、まちづくりへの貢献という目的を持ったBIZIA小倉は、SDGsが掲

げる「健康」「クリーンエネルギー」「雇用」「まちづくり」など8つの目標達成に向けた次世代スマートビルとして2024年4月に誕生する予定。現在リーシングを進めており、「優秀な人材が北九州市で働けるような、優良企業にぜひ入居していただきたい」という。

子会社を リノベーション事業専門に

また同社では、リノベーション

事業の強化を図っている。100%子会社の株ワールドミクニを株リノベミクニに改称してリノベーション事業の専業会社とし、4月から不動産事業全体の中で、リノベーション事業を特化させた体制にする。現在リノベーション案件のほとんどは住居系だが、今後はリノベミクニの全国12拠点で住宅系、事業所系ともに対応し、より幅広くリノベーション事業を推進していく考えだ。



「BIZIA 小倉」完成予想図。来春の開業を予定している